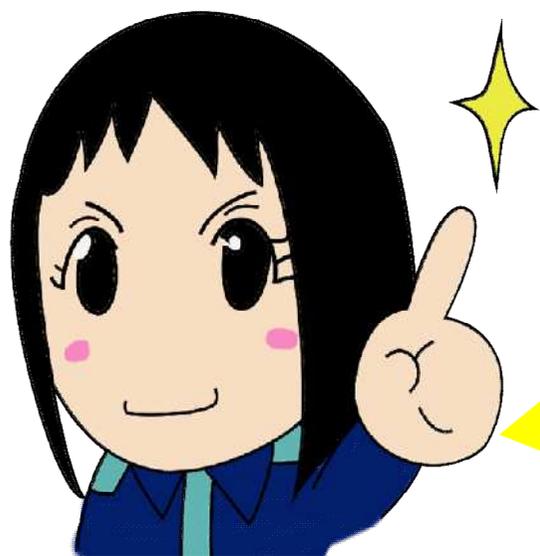


台風に伴う船舶海難の傾向と対策



秋季には、台風の影響による海難が多く発生します。

その傾向と対策を知って、未然に船舶海難を防ぎましょう！

傾向

- 台風に伴う海難は夏季から秋季にかけて多く発生
- 船舶用途は**プレジャーボート・漁船が約8割**
- 海難種類は**転覆・無人漂流（係留不備）・浸水が約7割**
- **約8割は係留中に発生し、防止が可能と考えられる海難が約5割**



対策のポイント



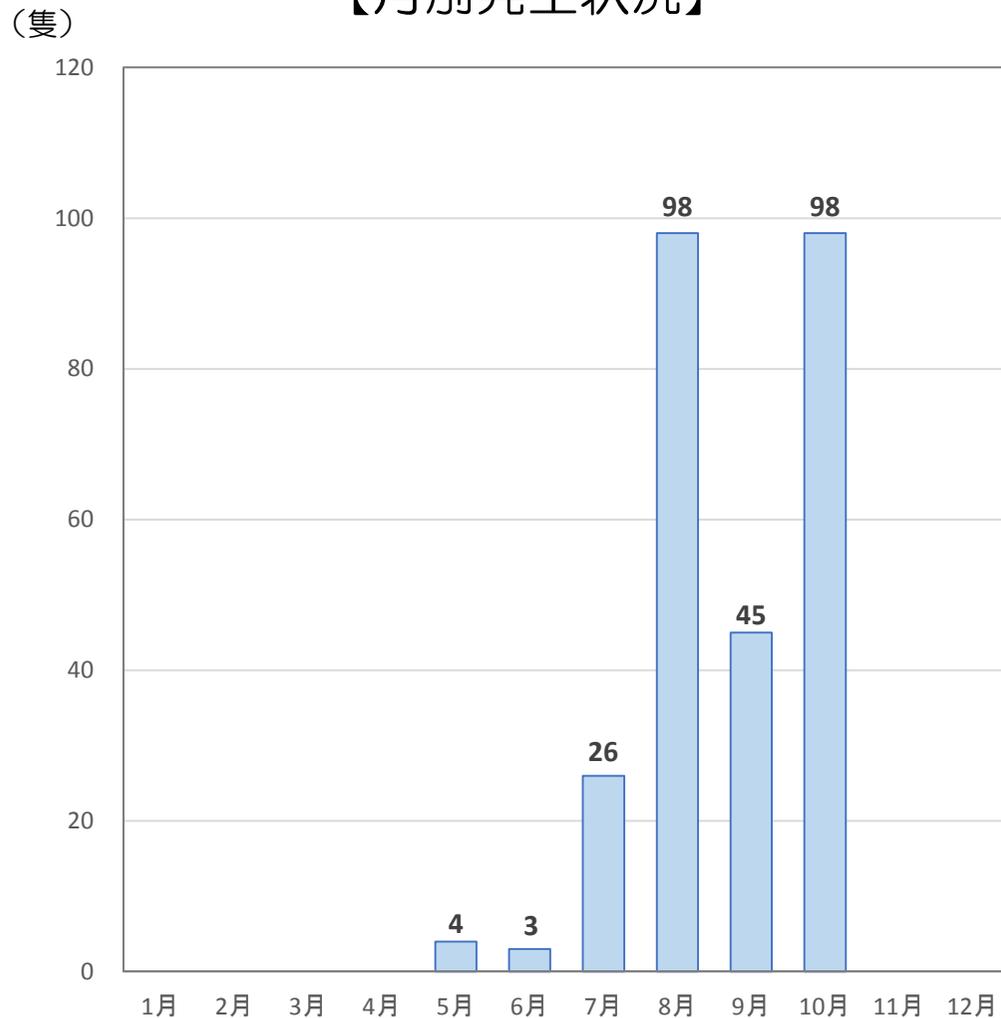
- 台風の動向を知るために、**最新の気象情報をチェック**
- 台風に合わせて**係留索の増強や陸揚げ**などの対策を講じましょう

台風に伴う船舶海難の月別発生状況（H25-29累計）

台風に伴う海難は夏から秋にかけて多く発生します。
 台風の動向を知るために、**気象情報のチェック**を心掛けましょう。

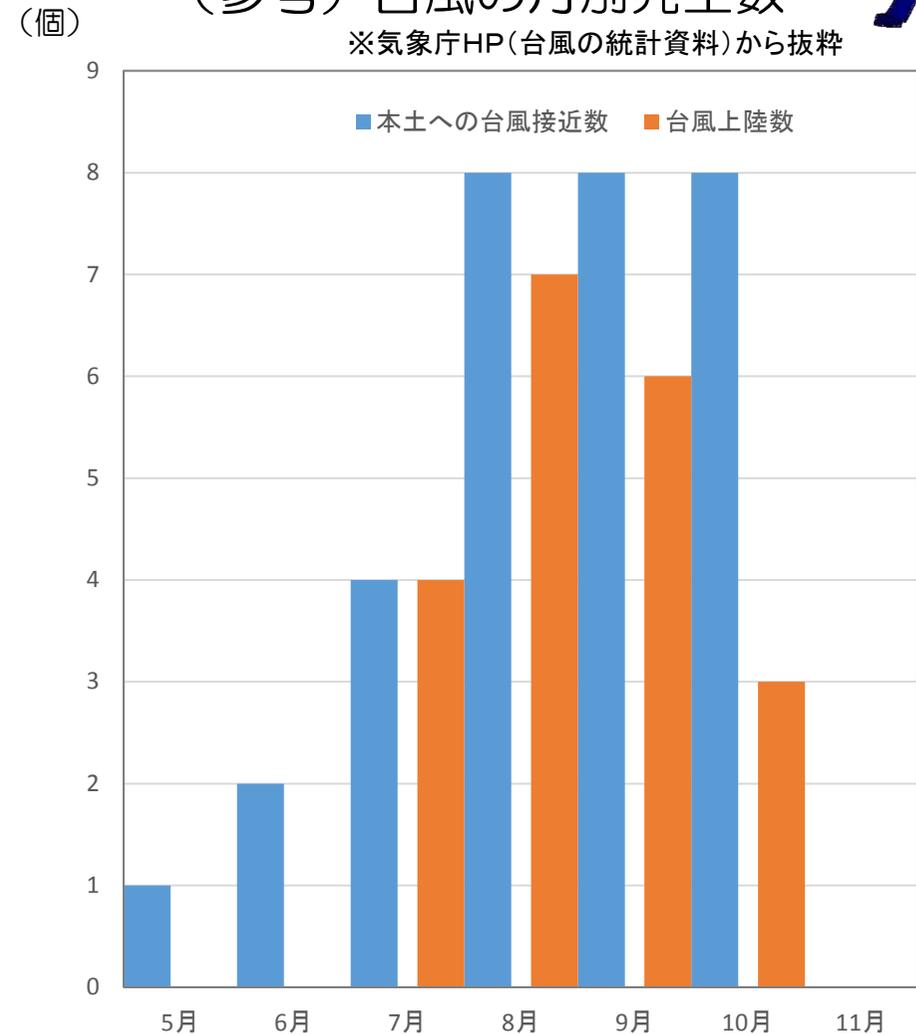


【月別発生状況】



(参考) 台風の月別発生数

※気象庁HP(台風の統計資料)から抜粋



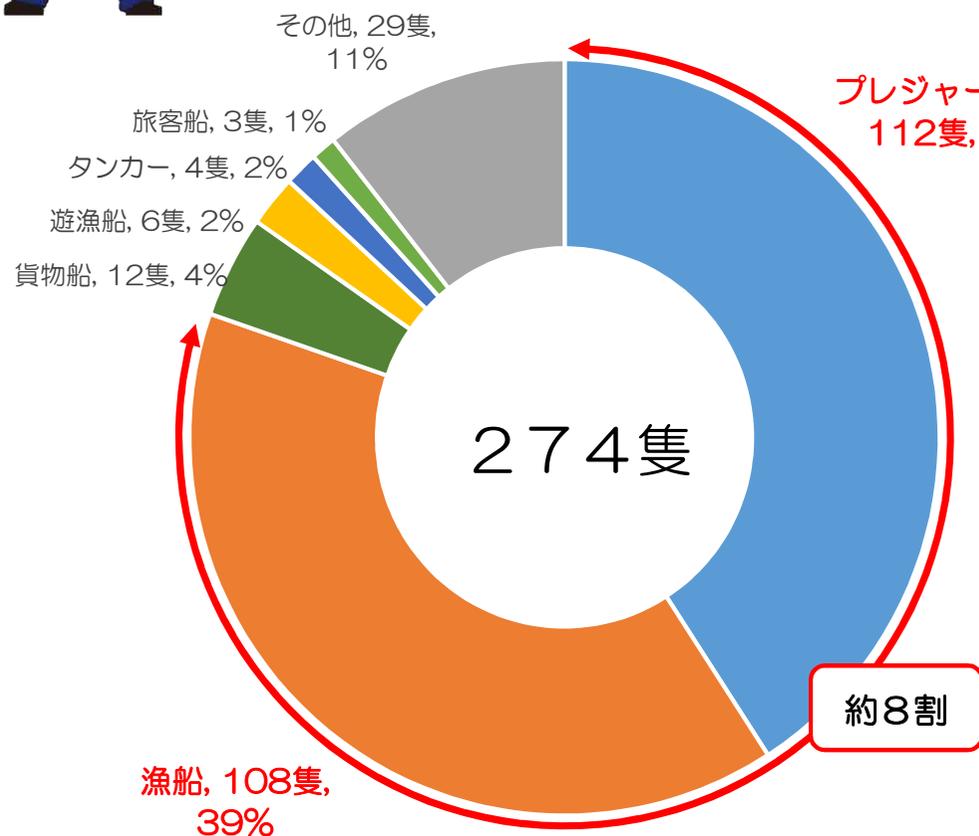
3. 台風時は転覆や船体の流出に注意！

台風に伴う船舶海難の用途別・海難種類発生状況（H25-29累計）

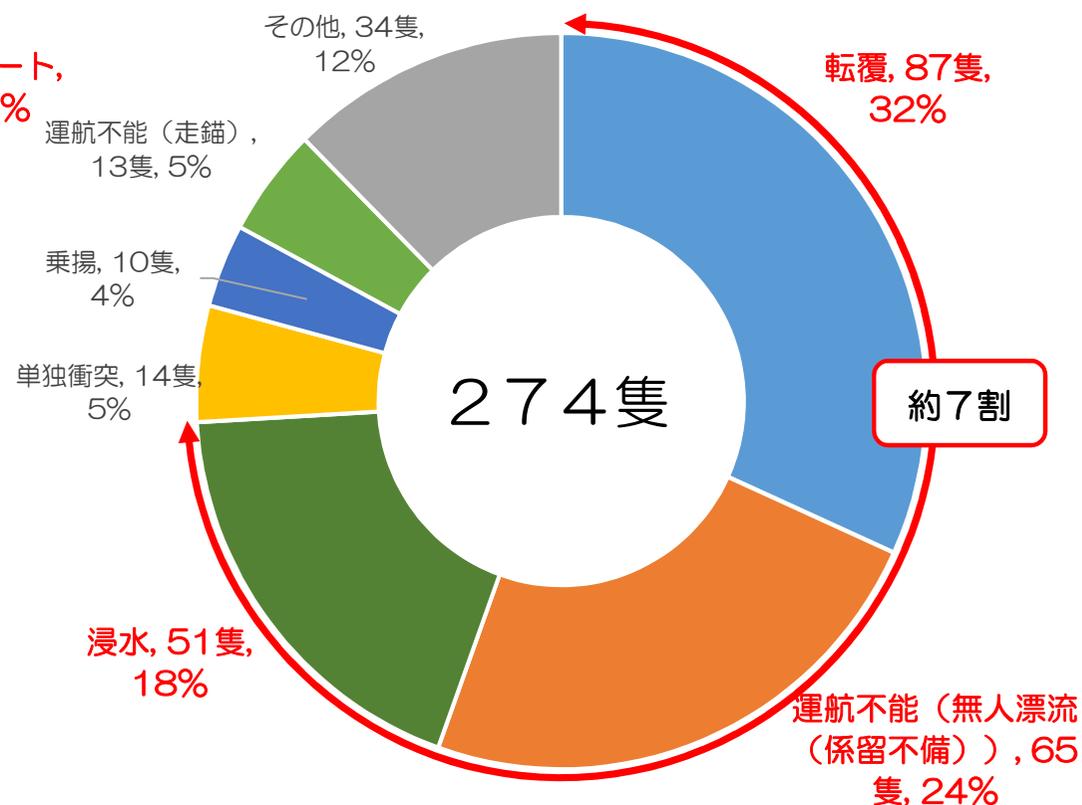


台風に伴う海難は、**プレジャーボートと漁船が約8割**を占めています。
また、**転覆・無人漂流（係留不備）・浸水が約7割**を占めています。

【船舶用途別の割合】



【海難種類別の割合】



※運航不能：運航に必要な設備の故障等により航行に支障が生じたもの

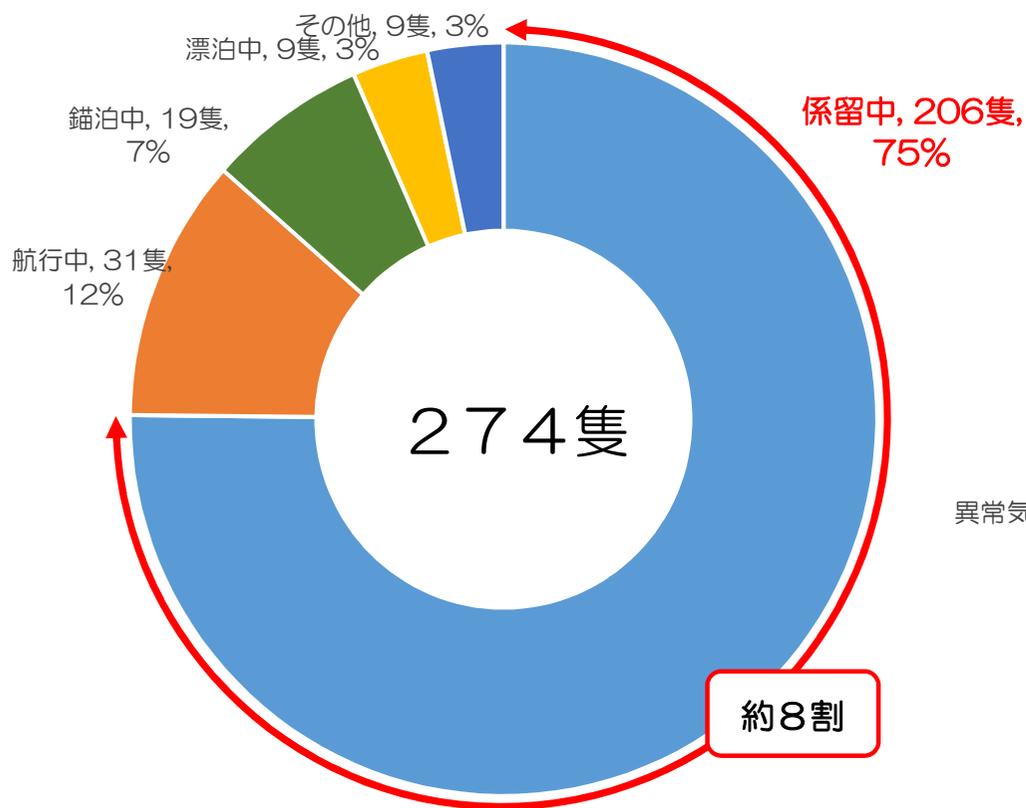
台風に伴う船舶海難の動態・原因別発生状況（H25-29累計）



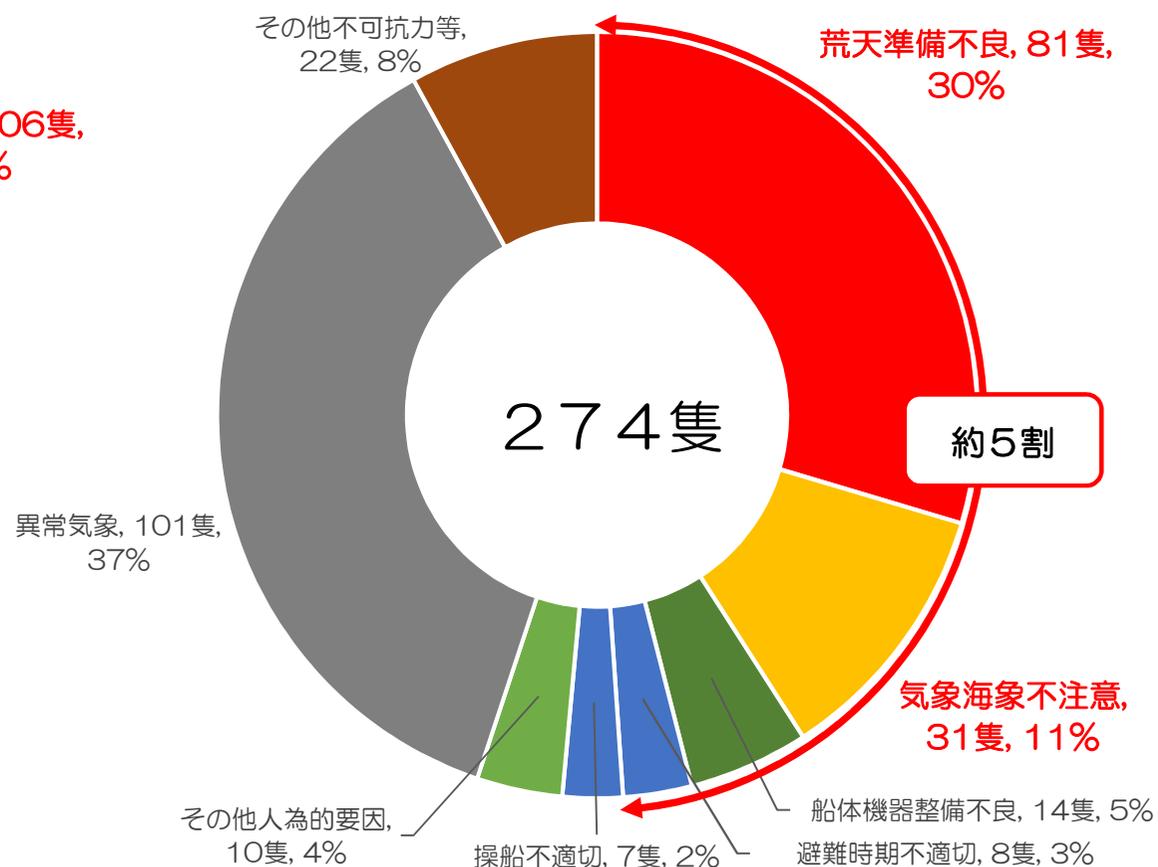
海難の**約8割**は**係留中に発生**しています。

荒天準備不良や気象海象不注意などの**防止が可能と考えられる海難が約5割**を占めています。

【動態別の割合】



【原因別の割合】



台風に伴う船舶海難の主な事例

【事例1】

漁船A丸(1トン)は港内に係留中のところ、台風の影響で浸水し転覆したもので、所有者は台風が接近することを把握していたが、今まで問題なかったため、普段通りに係留していた。

事故発生日、風雨が強くなったため、所有者はA丸を確認しに岸壁に向かったが、強風や風雨の強さにより、どうすることも出来なかった。

気象：風速22m/s 波高1.5m うねり2m

【事例2】

漁船B丸(9トン)は港内に係留中のところ、台風が接近していたことから、所有者により係留索増強等の措置を講じられていたが、十分な対策ではなかったため、強風と波浪に耐え切れず転覆したものの。

気象：風速23m/s 波高5m うねり3m



台風接近時はいつも通りの係留では不十分です！
必要に応じて、「係留索の増強」「シートで覆う」「重量物の取り外し」「陸揚げ」などの対策も行いましょう！
また風・うねりが強くなってからの作業は危険です！